

平成25年3月5日

3月・4月の管理ポイント



株式会社 トモグリーンケミカル

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第122号

今年の2月は例年になく寒暖の差が激しく、雨や雪も多い不安定な月となりました。3月からはひと雨ごとに気温も上がり、芝も動き出します。シーズンの始まりとして、しっかりと準備をしていきましょう。



レボ (REVO)

春先の灌漑管理が重要です...

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!

レボは土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆いますので、土壌中の空隙率がアップし、尚且つ、表層の過湿を防ぎます。グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え、下層に伸ばさせるためにも、この時期からの定期散布が重要となってきます。常に根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりと準備しておきましょう。

使用量：2ml/m² 散布水量：200ml～1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



サッチ・マネージャー

サッチ層の除去には...

新商品

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌(野生株)を選抜した微生物資材です。16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されており、様々な土壌環境にも適用できるように配合されています。製剤1g当たり約400億個の菌が配合されていますので、土壌中でも安定した効果が期待できます。

低価格に設定されておりますので、ラフ、FWなどの大面積散布にもご利用して頂けます。

使用量：ラフ・FW 0.1～0.2g/m² グリーン 0.5g/m² 散布水量0.2～0.5L/m²



グリーンメカ、メカプラス

芝生の貯蔵養分を補うために...

3月、4月は、休眠明けの植物が生長する時期です。

特に3月上旬の萌芽期は、一斉に芽出しさせることが重要です(生育のバラツキをなくす)。

休眠前に貯蔵しただけでは不足しがちな糖類、ミネラルをグリーンメカ、メカプラスを処理することによって、補っていきましょう。

使用量：5～10ml/m² 1L/m²以上



カラーマーカー・L

除草剤散布のマーキングには...

(カラーマーカーは当社の®です)

春の除草剤散布の際、散布済区のカラーマーカーに《カラーマーカー・L》を使用して下さい。

食用色素を主成分とした、環境にも配慮された商品ですので、安心してご使用いただけます。

従来の粉末タイプからリキッドタイプにすることにより濃淡(倍率)調整が容易になり、価格も安くなりました。

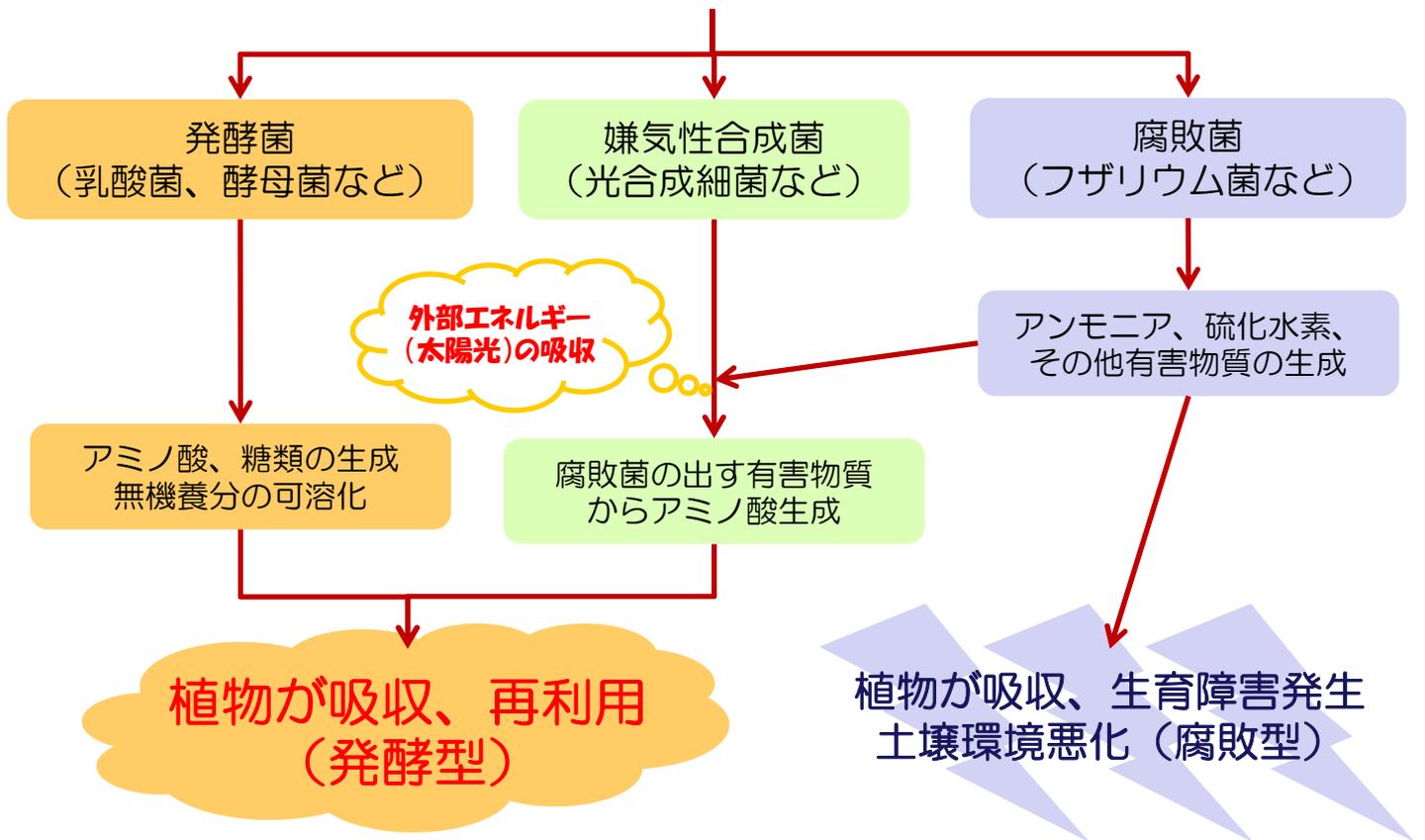
使用量：3000～5000倍(倍率は芝生や主剤の色あいにより自由に調節してください)

土壌中の発酵と腐敗

発酵と腐敗という言葉は一般的には食品分野で使われる言葉ですが、農業分野においても土壌微生物群の活動と関連してしばしば用いられます。発酵と腐敗の間には、必ずしも明確な線引きがあるわけではなく、広義には人間に有用なものを発酵、そうでないものを腐敗と呼んでいるようです。ということは、土壌中においては、植物（作物）の生育にとって有用なものを発酵、逆に有害なものを腐敗としてとらえることができます。

芝生土壌中の嫌気性分解を大まかに分類すると、下図のような流れになります。

サッチの嫌気性分解



...発酵（有用発酵）：微生物活動によるエネルギー放出は極めて少なく、不溶性の有機物を可溶化（植物にとって有効化）する系

腐敗（有害発酵）：微生物活動によって多量のエネルギーをガスや熱として放出し、植物にとって有害な物質を生成する系

嫌気性合成：発酵、腐敗により生成された分解物を基質に、窒素固定や光合成などで外部のエネルギーを取り込む系

サッチが嫌気性の条件で分解される場合、上図のようにいくつかの流れに分かれて分解が進みます。耕すことのできない芝生土壌では、土壌微生物のバランスをコントロールして、発酵型土壌を作ることが大切です。